

# 平成29年度 船橋市病院事業計画書

## ● 事業概要

### I 診療科目

27 科

内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・代謝内科・緩和ケア内科・腫瘍内科・精神科・  
小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・呼吸器外科・  
心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・  
放射線診断科・放射線治療科・麻酔科・歯科口腔外科

### II 病床数

一般病床

449 床（緩和ケア病棟：20床、その他：429床）

### III 施設

A館 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上8階建  
B館 鉄筋コンクリート造 地上6階建  
C館 鉄筋コンクリート造 地上5階建  
D館 鉄筋コンクリート造 地上3階建  
E館 鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階建  
感染症外来診察室 鉄骨造 平屋建  
院外医師住宅 木造 地上2階建3棟  
院外看護師宿舎 鉄筋コンクリート造 地上5階建一部3階建  
厨房休憩室 鉄筋造 地上2階建  
立体駐車場 鉄骨造 地上3階屋上建  
車庫 鉄骨造 平屋建  
保育棟 鉄骨造 平屋建  
(旧)保育棟 軽量鉄骨造 平屋建

## ● 事業計画(目標)

### I 患者数等

#### 1. 病院全体

入院	年間延べ患者数（一般・救急病床）：	137,110 人
	年間延べ患者数（緩和ケア病棟）：	4,370 人
	新入院患者数	12,350 人
	1日平均患者数：	388 人
外来	年間延べ患者数：	221,810 人
	初診患者数（一般）	20,600 人
	1日平均患者数：	897 人

## 【内訳】

### (1)一般病床

入院	年間延べ患者数：	58,440 人
	1日平均患者数：	160 人
外来	年間延べ患者数：	210,240 人
	1日平均患者数：	865 人

### (2)救急病床(2次+3次)

入院	年間患者数：	78,670 人
	2次 年間延べ患者数：	75,250 人
	1日平均患者数：	206 人
	3次 年間延べ患者数：	3,420 人
	1日平均患者数：	9 人
外来	年間延べ患者数：	11,570 人
	1日平均患者数：	32 人

### (3)緩和ケア病棟

入院	年間延べ患者数：	4,370 人
	1日平均患者数：	12 人

## II 病床稼働率等

1. 病床稼働率 (一般)	87.6 %以上
2. 平均在院日数	11.4 日以下

## III 紹介率・逆紹介率

1. 紹介率	60.0 %以上
2. 逆紹介率	90.0 %以上

# 平成29年度の取り組み

## 1. 高度急性期病院の確立

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと
救命救急センターの充実	断らない体制の強化	救急車の受け入れを断れることとなった事例を分析し、単年度で改善できるものについては改善し、複数年かかるものについては3年間の中で改善する。 スタッフの充実(救急医の確保、薬剤師)	救急車受け入れ台数 4,000台 三次救急患者 1,200人 救急医最低1名確保	三次救急患者が重なっても各診療科の協力のもと受け入れる
		ベッドコントロールの実施	救急患者の入院要請時は必ずベッドを確保する(24時間)	日中のICU・ACUの病床確保調整 ICU、ACUからの病棟移動優先患者を決める 応援体制により、救急外来での待機時間を減少させる
地域がん診療連携拠点病院の充実	指定の更新を見据えた体制の整備	現行の指定要件では努力目標とされているものが、指針の改定時に義務化される可能性がある。これらの指定要件の厳格化が見込まれるものについて対応する。 ・スタッフの充実 ・医療機器の整備 ・遺伝子検査ができる体制の整備	がん放射線療法看護認定看護師を1名、緩和薬物療法認定薬剤師1名の確保 がん放射線療法看護認定看護師15名 緩和ケア研修受講率 がん診療医90%、後期研修修了時100% 高精度放射線治療装置の導入	放射線治療装置、放射線治療装置用CT、高精度放射線治療計画システムの導入
患者サポートセンターの整備	入院前説明等を一元的に行う患者サポートセンターの整備	質の高い高度急性期医療を推進するため、手術予定の患者に対して外来で施行可能な検査や治療計画の説明、さらには退院調整の介入まで入院前に行うようにする。	全診療科の予定手術入院の検査、治療説明等を入院前に外来で実施する体制となり、手術予定の前日入院が原則となっている	眼科、泌尿器科、脳神経外科の導入と、小児外科・皮膚科・形成外科・歯科口腔外科の導入検討
地域医療連携の強化	より実践的な地域連携の推進	連携医からの紹介受付時間を拡大するなど紹介しやすい体制を整備する 船橋医療介護連携研究会を開催し、より実践的な関係を築くことでスムーズな転院(介護施設等を含む)を行える体制を構築する	優先予約患者数の増 毎月330人以上 在宅復帰率 95%以上 平均在院日数の短縮 10日以下 船橋医療介護連携研究会の開催回数 4回以上	優先予約患者を増加するように啓発する。
		地域のクリニックや診療所を訪問し、地域の医療機関との連携強化を図る	年間訪問件数 120件	目標達成に向けて取り組む

## 2. 安定的な経営の確保

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと	
収入の確保	病床稼働率の増	病床稼働率を上げる	病床稼働率 90%	土日入院の推進	
	新入院・初診患者の増	手術室の効率的な運用	手術室稼働率 75%	空き枠情報の共有 必要に応じて診療科枠の見直し	
	診療報酬請求の最適化	現状の査定率(0.2%未満)を維持しつつ、高額請求(2,000点以上)の査定減を減少させる。	査定率:0.2%未満 高額請求の査定件数:130件以下 高額請求の査定点数:1,200,000点以下	査定率:0.2%未満 高額請求の査定件数:130件以下 高額請求の査定点数:1,200,000点以下	査定率の高い診療科について重点的に点検を行う。
		DPCの適正なコーディング	医師と診療情報管理士の連携を密にして、適正なコーディングに努める	医師と診療情報管理士の連携を密にして、適正なコーディングに努める	DPCの適正なコーディングに努める ①傷病名等について適正な登録を促す ②術式、処置、副傷病名等についての確認を行う
		退院時要約が全患者について速やかに作成されるよう、医師及び看護師に働きかけを行う。	退院日の翌日から起算して10日以内に作成される退院時要約の割合:90% かつ30日以内に作成される割合:100%	退院日の翌日から起算して10日以内に作成される退院時要約の割合:90% かつ30日以内に作成される割合:100%	医師に対して督促を行う 個別注意を徹底する DAの活用
	診療報酬への対応	施設基準の取得可能な項目について対応する DPC II 群病院への復帰に向けた取り組みの実施及び診療密度の上昇	施設基準の取得可能な項目について対応する DPC II 群病院への復帰に向けた取り組みの実施及び診療密度の上昇	平成30年度診療報酬の改定に向けて早期の情報収集に努め、取得可能な施設基準の洗い出しを進める。 カルテデータの未反映の縮減 クリニカルパスの見直し	
	未収金対策	医療費の公費負担制度等の説明を行い、関係機関と連携して未収金の発生を抑制するとともに未収金の早期回収を図る。	臨戸徴収:月2回以上 催告書発送:年3回以上	医療費の公的負担制度等の説明を行い、関係機関と連携して未収金の発生を抑制するとともに、未収金の発生時点で支払を強く要望し、早期回収を図る	
	その他の収入確保策	がん患者指導管理料の実施	がん患者指導管理料の実施	管理料1 : 300件 管理料2 : 450件 管理料3 : 250件	乳がん看護認定看護師を外来・病棟配置とし、指導料1、2を計画的に取得していく
全入院患者への服薬指導の実施		全入院患者への服薬指導の実施	薬剤管理指導料 1,630件 実施率95%	薬剤管理指導件数の増加	
特別食加算の増加		特別食加算の増加	特別食加算比率 28.5%	計画通り実施し、加算比率を向上させる	
栄養食事指導件数の増加		栄養食事指導件数の増加	栄養指導件数 3,200件	院内外の医師へ栄養指導依頼への働きかけ、患者への周知	

## 平成29年度の取り組み

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと
支出の削減	委託料の抑制	26年度総額を維持	26年度予算額を上限として、業務を実施	仕様の過不足を確認し見直ししながら、支出額の削減に努める
	診療材料費率の削減	一般医療材料の統一 採用医療材料の厳密な選定	入院・外来収益に占める診療材料費の比率 15.6%(25年度実績)を維持	安価な同種同効品への切り替え促進 同種の材料のとりまとめ
	薬品費率の削減	採用薬品の厳密な選定	入院・外来収益に占める薬品費の比率 10.1%を維持	高額医薬品(オブジーボ・キイトルーダ)の値引率維持 価格交渉
		後発医薬品への切り替え	ジェネリック比率:数量ベース 85% 採用品目(後発医薬品があるもの)ベース60%	ジェネリックへの切り替え推進
		同種同効品の見直し	採用品目数:1,200品目以下	採用品目の増加抑制
廃棄薬の削減	期限切れ廃棄金額:45万以下	期限切れ廃棄金額の減少		

### 3. 医療の質の向上

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと	
総合診療施設の充実	医師の確保	初期研修医からの確保、大学との提携	29年度までに緩和ケア医1名、放射線診断医2名、精神科医1名、麻酔医・救急医・集中治療医6名、循環器内科医3名、その他診療科医師を確保	初期研修医からの確保、大学との提携	
	看護師の確保	看護師の確保	看護職員離職率 全体 9%以内 新人 7%以内	新人看護師支援:教育担当を3名に増員	
	7対1入院基本料の維持	重症度、医療・看護必要度の維持	重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者が28%以上入院している	日々の必要度確認、28%~30%を保持する 30年度診療報酬改定の情報をタイムリーに取得し、診療報酬改定に対応できる体制をつくる	
	チーム医療の推進	多職種のレベルアップ		後述の目標を達成する	各職種で専門・認定資格取得計画に基づき専門・認定資格を取得を目指す
		栄養サポートチーム(NST)の充実		ラウンド回数 50回/年 NST加算 500件/年	NST加算件数の増加を図る
		ドクターエイドの活用		退院サマリーのサポートを拡大する 研究発表のサポートを開始する	各診療科別に外来サポート介入方法を検討し実施する 遅れ気味の診療科に退院サマリーのサポート導入を検討する
	平均在院日数の短縮	院外への啓発活動を実施し、地域医療機関との連携を強化する		紹介率 60%以上 逆紹介率 90%以上	当院の診療内容の啓発(HP、訪問活動等) 返書管理の徹底
		低侵襲診断・治療の充実		短期滞在手術(主な5手術)の平均在院日数 2.8日 内視鏡手術件数 1,000件以上 血管内治療件数 1,000件以上	短期滞在手術のパス見直しと確実な運用
		急性期リハビリテーションの拡充		平日実施患者のうち土曜日にもリハビリを実施した割合:50%以上	人員を確保し、土曜日に訓練実施する患者数を増やす 訓練頻度を増やし、リハビリテーションサービスを充実することで、ADL低下を最小限にし早期退院を目指す 病棟専従について検討(A6) 29年4月に理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名増員
		退院調整看護師の積極的な活用 病棟で退院調整ができる看護師の育成 入院前の検査、説明、在宅療養支援等ができる体制の確立		退院支援加算Ⅰ件数 月380件 退院後訪問指導件数 年10件 訪問看護ステーション連携件数増加	退院支援看護師を各病棟1名配置 在宅療養の現場を知り、経験を連携に生かすため、看護師を訪問診療・訪問看護ステーションに派遣し、在宅看護研修を実施する
	クリニカルパスの推進	DPCに適合したクリニカルパスへの見直し(パス改定のチーム:医師・クリニカルパス担当看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士・診療情報管理士等)		全てのパスを入院期間Ⅱ以内にする パス適用患者数 7,000人 新規パス件数 20件 パス適用率 60%	パスを適用した患者の評価(バリエーション分析)を進め、DPCへの適合について検証する
	栄養管理の充実	喫食率の増加		喫食率 85.3%	経口や経腸からの栄養摂取支援
		フードサービスの充実		嗜好調査回数 年4回実施 献立内容、調査手順の見直し	計画通りに実施する
		他病院の栄養部門との連携		「がん患者の食事調整アセスメントシート」の活用 脳卒中の栄養シートの活用	計画通りに実施する

## 平成29年度の取り組み

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと
施設・設備及び医療機器等の計画的な整備	施設・設備の計画的な整備	病院機能を維持するために行う施設・設備の整備について、年度毎に計画を作成し、整備費用の平準化を図る。	A館放射線治療室改修工事	計画に沿った作業の進捗管理
			立体駐車場受変電設備低圧受電切替工事	計画に沿った作業の進捗管理
	高度医療機器の計画的な導入・更新	入院・外来収益の3%を目安に老朽化した医療機器の更新を優先度をつけて行うとともに、高度・先進的な医療に取り組めるよう新たな医療機器の導入を計画的に行う。	放射線治療装置	計画に沿った作業の進捗管理
	システムの計画的更新	計画的なシステム更新	就業情報システム更新	計画に沿った作業の進捗管理
			診断書作成システム更新	計画に沿った作業の進捗管理
心臓超音波画像管理システム更新			計画に沿った作業の進捗管理	
		遠隔画像診断システム導入	計画に沿った作業の進捗管理	
		医療画像院外参照システム導入	計画に沿った作業の進捗管理	
サービスの向上	患者満足度の向上	患者満足度の向上を図る	各項目の「満足」「ほぼ満足」の割合を前年度より向上させる	CS活動の実施
	外来待ち時間対策	各外来の基本的業務の統一 外来予約枠の見直し 外来診療待ち時間の対策	外来待ち時間が短縮する 外来待ち時間のクレームを前年度より減少させる	外来にDA配置 診療科予約枠、新患枠見直し
	接遇の向上	接遇研修の毎年度実施	1回	接遇研修を実施することにより接遇の向上を図る
	ボランティアの活用	ボランティアの活動内容、活動時間の充実、拡大	ボランティア数 24人	活動状況の広報および活動内容の充実

### 4. 教育・研修等の充実

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	29年度目標	29年度に実施する予定のこと
臨床研究の更なる充実	先進医療に対応できる医療職の育成	学術研究の促進	論文30編・学会発表100回	職員が積極的に論文・学会発表に取り組むよう促す
	臨床研究部の充実	治験実施件数が増加するような院内体制の整備	年間9件の新規治験の受託	実施診療科の拡充 臨床研究(治験以外)の推進(医師の負担軽減)
教育の充実	看護師教育の充実	キャリア開発ラダーに沿った看護教育体制の構築	キャリアラダーⅢ、Ⅳ認定者を育成する 中堅看護師対象の院内研修終了者の割合：100%	日本看護協会クリニカルラダーに基づくキャリアラダーへの修正 新キャリアラダーに基づく教育の実施
		専門看護師・認定看護師の育成	以下の認定資格を新たに取得 認知症看護、摂食嚥下、感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア 特定行為を実施できる看護師	認定看護師研修受講者の派遣 特定行為分野の選定
	メディカルスタッフの専門性の向上	認定資格の取得	以下の職種が認定資格を新たに取得 ・臨床検査技師 4名 ・放射線技師 1名 ・臨床工学士 1名 ・管理栄養士 1名	各部署ごとに必要あるいは目指したい認定資格の取得に努める
	薬剤師の育成	認定薬剤師の育成	以下の認定を新たに取得 その他認定薬剤師1名	教育の充実
	事務の専門性の向上	診療情報・レセプト(DPC)・電子カルテ・経理・病院経営に精通した人材の育成	学会、研修会への参加 40講座60人	診療報酬改定に対応するため、積極的に研修会に参加する
	病院職員の意識改革	講演会の開催	1回	計画的に実施する
臨床研修病院の充実	初期臨床研修医の充実	1) 卒後臨床研修評価機構の認定継続 2) 臨床実技シミュレーターの充実 3) 研修終了後の動向把握	1) シミュレーターでの指導医の指導が出来るか 2) メーリングリストを80%連絡 3) 初期臨床研修医12名の確保	1) シミュレーター室の環境整備 3) 初期臨床研修医12名の採用